

第4回東京都北区産業活性化ビジョン検討委員会（第1部会） 議事要旨

- 日 時：令和7年5月29日（木）18時15分～20時00分
- 場 所：北とぴあ8F 802会議室
- 出席者：中村部会長、田中光委員、丸野委員、田村委員、溝口委員、田中崇彦委員、中林委員、佐協委員、山岸委員（欠席：田中和江委員）
※中村部会長オンライン出席のため、進行は田中光委員

1 開会

2 前回の振り返り（集約・整理した意見の提示）

3 議事

■議題1 北区の「商店街」の「強み」「弱み」「想定される政策展開」

（A委員）

- ・事務局から説明のあったとおり、資料2や基礎調査報告書に参考となる情報が掲載されている。前回と同様、まずは「商店街」の「強み」「弱み」「想定される政策展開」についてご意見いただければと思う。

（B委員）

- ・商店街の強みとしては、近隣の方が徒歩や自転車でアクセスできるというのが一番の利点かと思う。逆に、買い物をするだけではなく、本来であれば商店街は店員や店主の方とコミュニケーションをとり、コミュニティの一つになるべき所だが、今はそういったコミュニケーションの場がとれる商店街が少なくなっているという問題がある。
- ・これからそうならんてもらいたいという願いも込めて、買い物をする場だけではなく、心のよりどころであったり、コミュニケーション・コミュニティの場になるようにしていきたいと考えている。

（A委員）

- ・コミュニティの場としての商店街という、それまでの姿があったとはいえ、現状はなかなか難しい。人口動態も変わってきて、それを維持することは難しい。非常に重要な論点かと思うが、それ以外に商店街の強みであるとか、弱みであるとか、このような支援を期待するなどいかがか。

（C委員）

- ・十条銀座は身近な商店街だが、そこではJスタンプという紙のスタンプがあり、一定額ごとにシールをもらい、シートに貼ってある程度たまると、金券として使用できるというサービスがある。それ自体は結構便利で商店街に行こうという動機付けになるのでもいいと思うが、問題は、商店街でJスタンプを出してくれるお店の数が限られている。特に、十条銀座でもいわゆるナショナルチェーンのお店ではスタンプが対象外になっていて、思ったほど使えるところがないことが問題かと思う。
- ・十条銀座に隣接している商店街として、十条富士見商店街、十条中央商店街などあるが、商店街が違つとスタンプが使えなくなる。商店街ごとに独立採算で色々なイベントをやっていると思うが、近隣の商店街でも使えるようになれば、より地域で買い物しようという動機付けになると思う。どうしても商店街ごとに別会計でやっているのて難しいと思うが、ひと工夫加えればもう少し広域に使えるシールやポイントが導入できるのではないかと思う。

(A 委員)

- ・スタンプ制による消費の誘因というのは、消費者の立場からすれば大事だと思う。どうしても全国チェーンは巻き込めない事情が商店街側にあると思うし、商店街ごとの独立性は組織が違うので難しいということは理解できる。商店街内での連携について、商店街個々の状況が厳しい中だからこそ、組織も含めて連携した方ができることがあるかもしれない。

(D 委員)

- ・弊社として商店街とどのような付き合いがあるかという点、弊社 1 階にお客様や外部の方が会議をするスペースがある。お花の雰囲気はどうしようかとなったときに、知り合いの花屋が近いのでお願いすると、お花をきれいに揃えてくれたりする。また、年始のお祝いセットで門松と鏡餅を花屋経由でお願いするとセットしてくれるので、事業者からするとわざわざ行かなくても来てくれて対応してくれることが利点に感じている。
- ・鏡餅については、花屋と米屋が連携しているようで、個店同士の知り合いで調達していると聞いた。商店街同士、商店同士の強みと思い、ありがたくお願いしている。

(A 委員)

- ・ある意味パッケージングされた、現在ある既存のサービスでは存在し得ないような、きめ細やかなサービスが想定できるところが、コミュニティ的な商店街のサービス業の利点だと思う。

(D 委員)

- ・もう一点、レストラン経営者の知り合いができて、その方に弊社の年始の社内の打ち上げを依頼したところ、食材や料理で無理なお願いをしたにもかかわらず、シェフ自ら出張に来てくれて、20~30 人分の料理を振舞っていただいた。かなり特別な対応だったと思うが、温かく品質の高い料理を皆で食べることができたということは、コンビニとは違ってとてもよかった。

(A 委員)

- ・他に何か、商店街としての強みあるいは昨今弱まっていると思われる部分、もともとある弱みなどいかがか。そういった強み弱みをフォローするような政策展開としてはどういうものを期待しているかについて何かあるか。

(E 委員)

- ・2023 年に策定した北区観光振興プランにおいて、ウィズコロナにおいて北区で行ってみたい観光先の第一位は商店街巡りになっている。平成 29 年とコロナ禍の結果は同じで、一位は商店街巡り。北区は商店街のイメージがかなり強いと思う。
- ・認知度では、十条銀座商店街は非常に高い。北区は商店街が沢山あるが、赤羽一番街商店街、LaLa ガーデン・スズラン通り商店街などは有名である一方、梶原銀座商店街は有名ではあるが、以前に比べると非常に寂しくなってきたように思う。その原因は、商店街に家が建ったことで、商店街に住宅ができてしまうと店としてはなかなか難しくなってくる。規制ができるかどうかは別問題だと思うが、北区の商店街巡りは強みで、観光施策でいうと、例えば商店街は日本人が普段利用しているところで、体験、文化の一つだと思う。
- ・トリップアドバイザーという海外のサイトがあるが、十条銀座商店街で惣菜を食べて、赤羽一番街で立ち飲みをするツアーが一人 29,800 円もするツアーがある。非常に付加価値が高い北区の商店街について、そこをどのように活かすかは考えないといけないと思っている。

(A 委員)

- ・トリップアドバイザーで開催している業者はどのような業者か。

(E 委員)

- ・トリップアドバイザーはOTA（オンライン旅行代理店）サイトで、旅前・旅中で見て、文化を体験したい方が見るサイト。トリップアドバイザーはあくまで取りまとめで、これを運営しているのは、個人向けの旅行会社だと思う。

(A 委員)

- ・個人向けの旅行会社はどういう系統かは把握しているか。トリップアドバイザーはあくまで Facebook や Twitter と同じくただのポータルなので、元々どういった人達がそういった文化を発信しているのかという所を確認しておかないと、どういったタイプの人達が集まるのかが分からないのではないかなと思う。

(E 委員)

- ・実際にどれだけ予約があるのかどうかは我々も把握できていない。

(A 委員)

- ・北区は商店街のイメージが強いという前提があるとはいえ、その中で一部しかあまり知られていないという話だった。現在有名な商店街がなぜ知られたのかという原因について心当たりはあるか。

(E 委員)

- ・十条銀座商店街は惣菜等のテレビの取材がかなりあり、YouTube 等で発信している。赤羽一番街は、清野とおるさんの漫画で「東京北区赤羽」があるが、知名度は結構あると思う。

(A 委員)

- ・観光協会からの発信、あるいは地元における発信者がいるということは確認していないか。

(E 委員)

- ・観光協会としてはInstagramでお店の発信をしている。個店を北区だけで展開しているお店を捉えてInstagramで発信している。

(A 委員)

- ・個店の PR をやることはとても大事だと思う。商店街も昨今はチェーン店が増えがちな現状があるので、個店を取り上げてこそだと思う。

(F 委員)

- ・商店街の店舗を誰かに貸すためにリニューアルをするという相談を年に何件か受けることがある。そのときに必ずネックになってくるのが、上にはオーナーさんが住んでおり、動線が商店の入口から生活空間につながるという構造がほとんどであるため、基本的に話が成立する可能性が低い。動線を分けるための工事はできるが、その見積もりを出すとなかなか話が決まらないのが現状。
- ・今後想定される策について、行政として協力していくことは、リニューアルに対する助成がメインになってくるのではないかなと感じる。この間、山形県の酒田まつりが開催されていて、酒田市の団体が酒田の物産を北区で販売したい、アンテナショップを出したいという話をいただいたが、どこかいい場所に心当たりがあれば教えていただきたい。

(A 委員)

- ・他の地域との連携ということだが、北区内での協力関係は後で部長から話を伺えればと思う。
- ・商店街の店舗の貸し出しについては、昨今どの地域でもシャッター街の話が出てきたときに、元々食住が一体であることが商店街の利点であると同時に、新規の店舗進出となったときには、逆にリニューアル・改修・リノベが難しくなる。元々動線を作るのが難しいということを踏まえた上で、改めて動線を築いてからこそその商店街の維持だと思う。そうしないと結局マンションにしてしまうという話になってしまうので、リニューアルに対する何らかの施策があってもいいと思う。リノベに対する何らかの施策があってもいいのではないかなという

う非常に重要な指摘だった。

(事務局)

- ・北区もこの数十年、家賃助成は行っていたが、商店街に空きが出たときの店舗のリニューアルは行っていなかった。この課題を我々も認識して、今年度（令和7年度）から、金額は大きくないが、動線の切り分けや整った店舗から一定の助成金を渡す制度を整えている。

(G 委員)

- ・商店街の会長会有り、参加している。70～80 歳の高齢の方が多くいらっしゃるが、今後どうしようかということになっている。毎回一つの商店街が解散したという報告を聞いている。先ほど出た LaLa ガーデン、一番街、十条銀座などは駅から近く、特色があって個店数も多いので行って楽しい。一番街、十条銀座は取材も増えて注目を浴びて、人も来るから新しい店も入るので、シャッターになっている場所が少ない。
- ・つぶれてしまった商店街は駅から遠かったり、高齢化が進んで貸しに出しても埋まらなかったりして、来街者もどんどん減少して、経営者も高齢化している。昔はイベントを開催して人を呼んでいたが、そのような元気もなくなり、減少したと思っている。赤羽であれば、飲み屋、飲食、惣菜を買うという楽しみ方がある。
- ・観光では、王子神社や飛鳥山公園がある。結局、まち全体をブランディングして、どのような商店を作って、どういう風なイメージを持たせるかということではないか。買い物に行こうとなると大型スーパーなどに行ってしまう。車に乗って行くなれば川口などになってしまうので、商店街は何のために必要なのかということになってしまう。
- ・今後継続させていくときに、10 年後、商店街に加入するメリットの判断が必要ではないか。北区や企業は、この街をどのように見せて、どのような商店を呼んで、どのような若者を呼ばいいのかという全体のまちの施策が必要だと思う。どのようにブランディングし直そうかとなったときに、商店会長達に中小企業診断士などのアドバイザーを付けることもありだと思う。個店単位、商店街単位では無理があるので、全体としてこのようにしましょうなどとサポートしていくと希望の道ができて、「このような商品を出してみようか」となるのではないか。そういったアドバイスのこと、若者やインバウンドを取り込むための施策を出していただければいいと思う。

(A 委員)

- ・今回の産業活性化ビジョン検討委員会自体についても、北区がこれまで産業振興をまんべんなく実施してきたために、ビジョンとして、どのような方向性なのかということがはっきりしない、どのようなまちにしたいのかというのが見えにくくなっている、そういった問題意識から始まっている。
- ・区内の方がどういった将来像や方向性を求めているのか、ということを決めることが大事だと思う。下手に外部の人に押しつけられても「それは違う」ということもあり得るので、検討委員会でご意見を出していただいて、悩んでいること自体が大変良いことだと思う。
- ・それはそれとして、全体としてのブランディングをどうしていくかがまだ見えていないと思う。それも含めて、どういったことを考えればいいのか、ということではないか。

(H 委員)

- ・先ほどの G 委員のご意見はごもっともな内容で、そのようなお話はよく伺う。金融機関として商店街の個々の店舗、お客様、事業者様のご支援、もしくは商店街単体として、例えば街路樹、外灯を直す、アーケードを設置するなどの「点」での支援はスムーズにできるが、商店街として何かをするという「面」の支援となると、支援をしたいが、商店街の中で意見をまとめるのが難しいことが多い。この商店街はやっているが、隣はやっていないがどうなのかといった意見が出て、話が止まってしまった事例を目の当たりにした。

- ・先ほどのA委員の話にもつながるが、外からのフラットな立ち位置で見て、アドバイスをする専門家が必要だという部分は感じている。ただ、中の方々が動かないことには進展していかないので、外の力を借りつつパワーは中の方でやるということが大事なのではないかと思う。

(A 委員)

- ・個々の店舗の支援ができたとしても、商店街全体の話になると、商店街の中で方向性がまとまらないとどうにもならない。方向性の不在ということが、今一番問題になっているのではないかと思う。
- ・商店街はコミュニティのベースということで、生活の基盤であると同時に、地域、まちの顔でもある。次の方向性が不在となると、この後どうしようかという話になってしまうのだと思う。

(C 委員)

- ・酒田の件だが、十条銀座に定期的に期間限定でイベントを開催しているスペースがあり、1週間ごとに店舗が入れ替わっている。十条銀座は比較的場所が多いところなので良い効果があるのではないかと思う。
- ・先ほどの商店街連合会の話について、商店街の組織が現在60程度あり、例えば、私が住んでいる地域であれば十条銀座があって、他にも十条中央商店街など、そういった所が連携してくれたら、おそらく区民にとってより魅力的な商店街になるのではという印象を持っている。
- ・同様に、他地域にも商店街があると思うが、そこを歩くと、路地ひとつ入ると違う名前の商店街があることもある。そこは組織としては別なのか、エリアとして盛り上げようとしているのか、商店街としての横の連携を行っているかどうかは分からないが、エリアを盛り上げるという点では、商店街のアドバイザーがいたら、よりやりやすいのではないかと思う。消費者の立場からすると、独立した商店街よりもエリアが賑やかになってほしい気持ちがあるので、そういう方向に施策をとってもらえればいいのではないかと思う。

(A 委員)

- ・商店街間の連携の状況についてのご説明はあるか。

(B 委員)

- ・商店街ごとに孤立しているというか、横の連携がとれていないのが実状だと思う。ただ、赤羽地区でいうと、春に行われる「馬鹿祭り」という、赤羽商店街連合会の商店街が集まった大きなお祭りがある。連携を全くしていないわけではないが、盛り上がっている商店街もあれば、シャッター通りになっているところもあり、温度差がある。
- ・地区ごとに商店街もばらけてしまっている部分もあると思うので、そこを北区の商店街連合会が一括である程度上手く連携させていけると、区民の立場からしても利便性が向上すると思う。今日はいいお話を聞くことができ、商店街の方にフィードバックしたいと思う。

(A 委員)

- ・北区には高齢者が多く、かつ、シャッター街になってしまった商店街、まだ存続している商店街などがあり、確かに色々連携してほしいと言われても難しいのも実状として納得する。そのあたりを連合会での連携という形でフォローしていただき、区としての広域連合という形で維持できれば、話が進むのではないかと思う。

■議題2 北区の「区民」の「強み」「弱み」「想定される政策展開」

(A 委員)

- ・続いて、区民に関して、このような強みがある、弱みがあるといった点と、そこを補強すべきビジョンとしてこのようなことをするべきといった話をいただければと思う。一般の生活者、消費者目線で見ると、10年後の北区がどのようなまちになっていたら良いかということを念頭に、それを実現するために必要なことはどのようなことか、様々なご意見をいただきたいと思う。

(C 委員)

- ・安心・安全である程度便利ということがまちに対して求めることである。外国人に対して特に偏見があるわけではないが、北区の数字を見ていると、去年 1 月 1 日は外国人の方が 27,000 人で、今年の 1 月 1 日が 31,000 人、5 月が 33,000 人と急ピッチで増えており、外国人人口が 9%に達した。国別だとネパール、ミャンマーの方が多く、外国人の方と共生する社会をいかに早く作るかということが大事ではないかと思う。
- ・私の住んでいる地域では、2,000 世帯、3,000 人程度が住んでいるが、街中では外国人の方が立ち話をしている風景はあるが、どこに住んでいるのかは分からない。外国人の方との共生をなるべく早く進める必要があると思う。

(A 委員)

- ・今後、高齢化社会である以上は、外国人の移住も含めて自治体が直面すべき、考えておくべき方針であるということを前提にしなければいけないと思う。共存の方法について、こういった取り組みをしていますという方はいらっしゃるか。

(H 委員)

- ・埼玉県川口市に住んでおり、ネットで「外国人」と検索すると「ホットなまち」として出てくる。かつて、川口市の北側に住んでいて、川口市の南側に引っ越してきたが、北側にいたときはクルド人の方々が住んでいて、あまり言いたくないが、ほとんどルールを守らない。コンビニの前で大声を出したり、ラジカセで音を鳴らしながらたばこを吸ったり、警察を呼んでも犯罪行為をしているわけではないのでなんともし難いと言われている。子どもの小学校のクラスにも数人いる。仕方がないと思うが、日本語が分からないので、授業中に遊んだり、真面目に勉強している子達が阻害されるということが実際にある。
- ・川口市の南側は中国の方が非常に多く、小学校のクラスの 3 分の 1 が中国人だった。35 人クラスで 10 人程度が中国人。生まれたときから日本にいる中国の子と、4~5 歳で親と一緒に引っ越してきた中国の子がいる。日本で生まれた子は日本語が話せて、引っ越してきた子は日本語が話せず、日本語を話せる中国人の子どもが通訳をしている。近くに住んでいる中国の方は非常に勉強意欲や経済力が強くて、レクサスとか外車に乗っている。日本人がなかなか乗れないような車に乗っていて、勉強熱心で、成績上位は中国の子供達。今住んでいるところでは外国の方はルールを守っている。生活文化の違いはあるが、長い時間をかけて地元の方々がゴミの出し方、駐車の手配等を丁寧に教えているから共生ができているのではないかと思う。
- ・人種が何かと場所がというよりも、長い付き合い、入ってくる方々の目的、意欲によると思うが、一言で共生・共存と言うが、非常に難しいというのが実状。区として共生を謳って、引っ越してきて大丈夫ということであれば、非常にナイーブな問題ではあるが、考える必要があるのではないかと思う。

(A 委員)

- ・実際にそのあたりに住んでいる経験がないと実感がなく、難しいと思う。前回、部会長もおっしゃっていたように、もし、外国人移民を誘致するのであれば、大学生、高所得者を中心にすべきであって、手当たり次第にすべきではないといった話もあり、そのあたりの話とかみ合ってくるのではないかと思う。
- ・居住者、生活者としてだけではなく、企業側はどういった産業に従事する人達を呼ぶのかという発想にもかみ合ってくると思う。これは、観光問題にもかみ合ってくる問題だと思う。最近、川口市がネット上で問題になっているので、真剣に考えて、ビジョンとして提示しておくべきことではないかと思う。

(D 委員)

- ・外国人の件について、以前調べたところ、北区の外国人に対する日本語教育について、火曜日のこの時間の夜に月に 3 回、このような講座・講習があるので受けたらどうですか、といった案内がなされていた。そこまで充実した内容のものではないと思うが、外国人の方との共生は今後必須になると思う。

- ・企業としても外国人の採用は多いが、ご家族はどうするかということが盲点で、そこまでは企業としてサポート、手当ができないので、行政がサポートしなければならないと思う。その部分を充実させることはやってみるべきだと思う。
- ・北区内にも外国人に外国語を教えているしっかりした専門学校もあるので、そういうところと連携することがあっていいのではないかなと思う。

(A 委員)

- ・外国人に対する語学講習に関して、区でやっていることはあるか。

(事務局)

- ・総務部が民間の外国人学校に一定の支援、外国の方に日本語の勉強をしに来ていただくような教室を一定枠、細々と開催しているのが実状。区としては課題であると捉えていて、今後外国人がさらに増えてくると思うので、区としてテコ入れはしていく方向になると思う。

(A 委員)

- ・今までであれば、産業振興課が考えるべきではないと思うが、今後は人材不足の中でどこの企業も外国人材が必須になってくるので、日本で就職される方はまず、日本語ができなければ企業側も採用しないという前提がある。加えて、先ほど話があったように、子どもや配偶者はどうするのかという問題がある。本人が日本の大学を卒業したとしても、配偶者や子どもまでは日本語ができないだろうという前提になると思う。
- ・子どもの支援を考えると、産業振興と直接関係ないように見えるが、今後 10 年を視野に入れると、そのような問題も出てくるのではないかなと思う。今の時点で既に区として取組みがあるなら、改めて産業側からも見る必要があるのではないかなと思う。

(C 委員)

- ・外国人の話とは別だが、中十条 3 丁目は 2 千世帯・3 千人くらいが住んでいて、1 世帯当たりの人数が 1.5 を切っている。北区の平均が 1.7 人くらいなので、少し下回るくらい。町会への加入数が 525 で、世帯数は 25%。単身世帯が 5 割を超えており、単身世帯は基本的に町会に入らないと考えると、5 割くらいの方が加入しているイメージ。町会という組織は、住む上で組織があることで人とのつながりがあり、安心感につながる。単身世帯の比率が上がってしまうと、自ずと町会の組織は弱体化してしまう。少子化対策になるが、その前に婚姻数を増やして複数人世帯を増やすような施策をすれば、自ずと地域の住民間のつながりが強くなりやすくなるのではないかと個人的には思う。

(A 委員)

- ・町会組織がコミュニティとして維持できなくなってしまう問題がある。ここ 20 年くらいの日本は生涯未婚率も上がっている状況で、急増している。北区を「子育て世帯の集まるまち」という風にアピールしていくことは必要だと思う。先ほどのビジョンをどうするべきかという話にあったように、子育てをするような世代を集めるべきという方向、ビジョンで集めるという方向で打ち出していくのはありだと思う。
- ・日本全体のトレンドとして、単身世帯が増えるという点については、今後 10 年程度は当然避けられそうになるのが実状。単身世帯を地域のコミュニティにどうやって取り込むかということも必要。高齢者だけではなく若年世帯、単身世帯をどう取り込むかということも考えていかなければならないのではないかなと思う。
- ・北区には東洋大学が立地しており、学生も地域に下宿をしている。大学生で結婚している方はほまないと思うが、そういった方々にどのようにして町会組織に加入してもらうかということが大事。大学生は、言い方は悪いが、お金はないけど元気はある世代だと思うので、町会、町内会組織としてのメンバーになってもらおうとすると「お金がない」と断られる可能性もある。むしろ、地元のコミュニティ組織として、本人達にも楽しいようなことがあれば加入してくれるのではないかな。ある種、準メンバーであれば加入してくれるような人が

いるかもしれないという方向で、単身世帯の取り込みを考えてもいいのではないかと思った。もちろん、2人・3人・4人子どもを育てるような子育て世帯を取り込むような自治体にしたいという方向性にすることも必要。若年層の単身世帯を取り込むと、そういった方々がそのまま結婚して定着してくれる可能性もある。

- ・日本全体のトレンドとしては、高齢化という認識だけでなく、高齢化による単身化、配偶者と死別してしまうということは当然だが、若年層が将来的にも結婚しないというケースがかなり増えてきているという点も重要。組織づくりのときに、結婚している人のみをメンバーシップの条件にしてしまうと、そもそもそのような条件を満たせる人間はいない可能性がある。そのあたりを含めてコミュニティ組織の作り方、あり方そのものを再考してもいいのではないかと思う。

(B 委員)

- ・町会組織の件について、私は町会で班長をやっている、商店街と同じような仕組みで、会長が今年 90 歳になる方がやられていて、さすがにこれ以上自分ではできないということで、今年度若い方に代わった。商店街も町会も同じだと思う。
- ・若い方に代わってもやることは同じで、各家庭を訪問して町会費を集める作業があるが、私はそれがストレスで、区民ニュースをポスティングするくらいならやるが、断られたり、不在なので再訪しないといけないうなどを考えると、できる方は少なくなっている。
- ・赤羽は、場所柄商店街に面しているのだから、商店街を一軒一軒回らないといけない。去年は回ったが、今年は社長が変わったのでという理由で断られたりした。また、今まで払っていなかったのだから、今年も払わなくてもいいのですかと言われてもした。
- ・商店街の件について、外国の方が多いという話だが、東十条の東十条商店街、東十条銀座商店街はスリランカの方が多くて、保育園にもスリランカ人のお子さんが来ているが、商店街に毎月払う賦課金を払っていただけない。あれだけ大きな商店街なのに3分の1がそういった店舗になってしまい、賦課金が集まらなくて商店街自体が思うように動かなくなっている。
- ・できれば行政、商店会も町会もある程度強制力のあるような規制等を設けられればと思う。商店会に入るのなら必ず加盟しなさいといったような規制等が必要だと思う。町会があるのなら、できれば町会費を払っていただきたい。払えないのであればせめてボランティアをしてほしいと思う。そういったルール、若干強制力のあるようなルールがあると、逃げる方や嫌がる人もいるかもしれないが、ある程度ルールに則れば、参加者が増えるのではないかと少し期待している。

(A 委員)

- ・罰則規定そのものを強制することは、民間組織なので行政からということでは困難だと思う。とはいえ、加入しているにもかかわらず、まともに会費も払わず、何の協力もしないという状況、モラルが低い会員が集まってしまうというトラブルは大変だろうと思うので、それに対する対応が必要かもしれない。
- ・内部規則で罰則をつくってもなかなかそれに従わない可能性もあると思う。そもそも加入を断った場合に対するマイナス要素があればいいのかもしれない。商店街活動が活発でない状況の場合は「商店会に参加しなくてもいいではないか」といった動きを加速化させる可能性があるのではと思う。逆にいえば、商店街活動そのものが活発化してプラスになるようなものがあれば、加盟しないということそのものがマイナスだと本人達に思わせることができるかもしれない。ボランティアはマイナスではなく、むしろプラスの楽しい活動だと思わせるようなことができれば、参加する人もいると思う。

(D 委員)

- ・私も子育て世代で小さな子どもがいるので、飛鳥山公園や西ヶ原みんなの公園によく行くが、土日はすごい人手で、夏場は噴水が出る場所がある。以前、知り合いと話したときに、区内だけでなく他の地域から来ているとのこと。資料にも大規模公園が多く、魅力向上をするようにがんばっていると書かれていて、そのとおりだと思う。
- ・多くの人が集まっているが、その方達が商店街の方に行っているのだろうかと思った。王子近辺でその方達がお金を使っているだろうかということを考えたときによく分からなかった。飛鳥山公園の中にキッチンカーが1台だけ出ているが、夕方に行くと売り切れていて、行列ができて流行っている。そのあたりの人の流れを誘導できているかどうかを課題として挙げたいと思う。
- ・単身世帯について、学生は住んでいるところからなるべく近いところに就職したい、地元就職志向が非常に高まっている。北区は交通の便もよく、住宅費用も少し安く、適度に都会に近いということもあって非常に単身世帯、学生にとっても魅力的な場所のようである。北区に住んでいる方に弊社に新入社員、中途採用でも入社していただいた実績がある。何とかそういう方達と接点を持ちたいという気持ちはあるが、実際はどこで接点を作ればいいのか、どうすれば接点ができるのか分からず、自社で「北区の会社です」とアピールすることにとどまっている。そういった所がつけなげられたらありがたいと思っている。

(A 委員)

- ・どのようにアピールすべきかというときに、まず必要なのは北区のイメージではないかと思う。皆さんおっしゃっているように、住みやすい、23区なのでここ自体が都心である、副都心にも近いといった魅力は色々あるはずだが、上手いこと端的にアピールするやり方が見つからないので、ずっと話をしているのだと思う。
- ・学生はかなり増えているので、東京で就職したいという需要をどのようにアピールするかということは、今回の産業活性化ビジョンとしても、それ自体が労働者をどのように確保するかといった話も含めて、あるべき視点かと思う。
- ・飛鳥山公園のキッチンカーに限らず、周辺の派生的な商品事情に関して、観光協会あるいは自治体の方で何か把握していることはあるか。観光に来た人に対して周辺で何があるか、観光といえば、観光地に人が来ただけではなくて、周辺の飲食店にどれくらい行ったか、そこでグッズを購入したかなどに関して影響があったかどうか。例えば、大谷翔平で経済効果が何億といったときに、その経済効果は、それを見た人がどこで何を購入したり消費したりしているかという話だと思う。飛鳥山公園だったら、お花見で人がどれだけ来ているかといった人数だけではなくて、その周辺、北区内でお金を使っているか、グッズを購入しているか、キッチンカーや出店で購入しているかどうか、その後近隣の居酒屋やレストランに行っているかどうか、そういったデータがあると良い。

(E 委員)

- ・毎年花火大会を9月下旬に開催しているが、行政主導ではなく民間が行っている花火大会である。赤羽だけでなく川口側にも席を増設したが、非常に賑わう。花火という経済効果はあると思う。
- ・イベントに関しては、確かにその日だけは公園内に出店している事業者はそれなりに儲かっていると思うが、それを点と点で結んで回遊させることは非常に難しく、様々な課題があると思う。
- ・現在、荒川河川敷でかわまちづくりが進んでいて、北区観光協会が2024年に赤羽ピクニックフェスタというイベントを開催してドッグランを実験としてやってみた。区民の方が「あったらいいね」という内容をやってみることが大事だと思う。
- ・区民の方が愛着を持って「北区いいね」と思っていて、初めてそれが波及効果として広がって、区民の方が「北区は住みやすい」とどんどん愛着を持っていき、そういう形で徐々に人口が増えていくと思っている。観光協会としては花火大会もそうだが、様々なイベント、商店街と連携したイベントやライトアップ、試験所

の活用などをしながら、北区の観光資源に光を照らしていけると思う。

(A 委員)

- ・お花見に関して何か特殊なイベントをやっているか。

(G 委員)

- ・3月の最終土日に開催される「北区さくら SA-KASO まつり」に携っているが、まず、花見等のデータは全くない。基本的には、イベントとして開催して集客をしているというより、そもそも飛鳥山公園にお花見にいらっしゃっている中でPRをして、仮装等をするお祭りになっている。現在はキッチンカーを所狭しと配置して、なんとか運営できる状態になってきたと思う。花見の時期は、王子のまちは全ての店が満席になるような状態で、昨年の開花は24日くらいで、七分咲きで寒くなって4月の1週目くらいまで花見が続いた。そうになると何%というレベルで売り上げが昨年度比と変わってくる状態で、1週間花見が延びるだけでまち全体が変わるといった実績がある。
- ・北区は高齢化率がナンバーワンかどうかは分らないが、高齢化ということを良い面として捉えて、北区といえば高齢者のハーレムですといった、そういう捉え方もあるのではないか。ただ、それを売りにして高齢者が沢山集まってしまっても大変になると思う。お金をほどよく使っていただき、税収を上げていけると良いと思う。
- ・10年後の北区はどうなっているかという、私の子どもが現在20歳なので、10年後は親になっている可能性もある。自分の移り変わりとして見ると、北区は住みやすいと思うが、赤羽東口には住みたくないと思っている。駅前が繁華街になってしまうとどうしてもいがかわしい商売やキャッチもすごいので、男性にとっては魅力的になり、帰宅も遅くなるので、無駄な経済効果が生まれてしまうと思う。彼らが税収をきちんと納めてくれればいいが、そうでもないのではないかと感じながらこちらもお金を使っているところもある。
- ・飛鳥山公園も素晴らしい公園で、知り合いが飛鳥山公園に来たから覗いてみましたというように、他の地区からわざわざ来る人もいる。音無親水公園も素晴らしいので動線をきちんと作った方がいいと思う。「このまちいいね」と思わせるような動線作り、エリア作りが大事になってくると思う。

(A 委員)

- ・高齢者がゆっくり、安らかに暮らせるということは、子どもにも安心・安全であることは間違いないと思う。そういった意味でそちらに配慮するということは、同時に若者にとっても暮らしやすいまちになるのではないかとこの指摘だと思う。治安が悪くなると、誰が住み始めるのかという方向に流れてしまうことは十分起こる可能性がある。
- ・皆様からいただいたご意見は、後日事務局でまとめ、次回の検討委員会で皆様にお示しするという形としたいと思いますが、よろしいか。

(異議なし)

(A 委員)

- ・では、そのように決定させていただく。

■その他の分野の意見交換

(事務局)

- ・ここで、「商店街」及び「区民」に付随する分野として、これまでの検討委員会においてあまりご意見が出ていない「スポーツ産業」及び「地域プレイヤーの発掘・育成」の2点について、ご意見をいただきたい。
- ・「スポーツ産業」も非常に幅広い分野ではあるが、例えば、プロスポーツ、スポーツ施設、スポーツ用品の製造などのほか、近年ではアーバンスポーツやeスポーツなどが注目を集めている。

- ・「地域プレイヤーの発掘・育成」については、地域の活性化には、地域にいる様々な人々の活動をサポートしながら連携させ、地域をまとめていくリーダーの存在が重要であり、北区では、地域活性化の担い手の育成を目的とした事業として、東京商工会議所北支部と共催で「北区担い手みらい塾」を開催している。
- ・残りの時間は、「スポーツ産業」及び「地域プレイヤーの発掘・育成」をテーマに、これまでと同様、「強み」「弱み」「想定される政策展開」についてご意見頂戴できればと思うが、「強み」「弱み」という形でご意見を述べるのが難しいければ、「想定される政策展開」のみでも問題ないので、よろしくお願いしたい。

(A 委員)

- ・「地域プレイヤーの発掘・育成」とは、地域リーダーということでしょうか。コミュニティ活動、企業活動、特に限らないということでしょうか。どちらでも構わないので、地域におけるスポーツ関係と地域におけるリーダーの発掘・育成について、ご意見・所感をお願いしたい。

(C 委員)

- ・北区はトップアスリートのまちを謳っており、北区推進協議会の資料では、スポーツイベントに関して、相当幅広く様々な議論が行われている。イベントについても、北区ニュースでスポーツ関連のイベントは区民向けに色々と告知されていて、アスリートから教えてもらいうイベント、高齢者向けの運動イベントがあり、非常に充実していると思う。
- ・北区は、女子サッカーの東京ヴェルディベレーザの本拠地であり、そのようなプロチーム、トレーニングセンターもあるので、スポーツに関しては非常に恵まれたポジションで、スポーツを盛んにするには絶好な区ではないかと思うが、それを産業化するのには難しいと思う。
- ・よくありがちなことは、スポーツチームの売り上げを伸ばすことが象徴的なことだが、それは区にどこまで関係があるのかということ。区民が応援をすることにお金を使えば、スポーツチームの売り上げが伸びると思うが、これも一つのスポーツ産業の発展のあり方だと思う。
- ・西が丘のスタジアムでもイベントをやっているが、イベントの売上がどのようになっているかは分からない。イベントや大きな大会があって、人が集まれば商業にもメリットは絶対にあると思うので、人の集まるイベントに対して告知してそこをチャンスとすることは良いかと思う。
- ・あとは、スポGOMI という、ゴミ拾いをしてポイントを貯めるイベントがある。スポーツ産業について色々と調べたが、スポGOMI はかなりポテンシャルがあるイベントだと思う。街がきれいになる、誰でも参加できる、区民間の連携も深まる、人がより集まるイベントになれば商業のチャンスも出てくると思う。スポーツ産業の種は沢山あるので、それをどのように育てて、収穫するかということが大事ではないかと思う。

(A 委員)

- ・確かに産業化が難しいと言われると「なるほど」と言わざるを得ないところがある。サッカーにしても何にしても、その街が城下町のように持っているところだと、まさにそのチームとともに都市そのものが産業と活性化を全て任せているといったことが、ヨーロッパ諸国ではかなりある。そのチームと一体であるといった感じがサッカー業界ではある。
- ・そういった意味で、北区はトップアスリートがいるということを前提にしつつも、企業チームとともにあるというまちではないと思う。アスリート養成については、ある意味企業ではなく、自治体側がかなり押していないとアスリートの街であるとなかなか認識してもらえないのではないかと。企業チームは勝手に企業が頑張ってくれるが、大企業が頑張ってくれない場合、自治体と地元と観光協会で作るしかないが、資本量の差があるので厳しい。
- ・北区をアスリートのまちとして売り出していくという話であれば、地域の大きな反対はないかもしれない。若い人が憧れて、いいじゃないかと思ってくれる可能性はあるのではないかと。改めて方向性を考えてもいい

いのかもしれないと話を聞いて思った。

- ・他にスポーツ関係、地域のリーダーの発掘・育成について、アスリートに関しても、シニア層のスポーツや運動も重要になってきているが、どうしてもトップアスリートになると「基本は若者であろう」と想定されていると世間的には思われていると思う。地域のリーダー的な存在としての発掘・育成というよりも、スポーツを念頭に置くような形になってもいいのではないのか。たとえ、その後地域から出て行ってしまっても、地域の顔としてトップアスリートが一時的にでもいてくれると良いかと思う。何か地域プレイヤーの発掘・育成、スポーツ産業について他にご意見がある方はいらっしゃるか。

(E 委員)

- ・地域プレイヤーの発掘について、北区観光協会は今まで色々なイベントを実施してきたが、今度は、他の方にやっていただこうという動きに昨年度から注力している。きっかけは、飛鳥山公園で 2023 年度に実施した飛鳥山公園 150 周年記念プロジェクトで、飛鳥山公園は基本的に都市公園なので火を使用してはいけなく、夜間の音など様々な規制があるが、規制緩和したイベントをほぼ毎月、9 回ほど開催した。その中で観光協会が中心となり、地域の方々や北区にもご協力をいただいて開催した。それを見て翌年度開催してみたいという方がいらっしゃった。
- ・例えば、飛鳥山公園で別の事業者が開催した「星空シアター」について、飛鳥山公園で実験的に開催してみたらやってみたいという業者さんがいて、それを支援した。また、2 回目になるが、今年 5 月のゴールデンウィークに飛鳥山公園でシンコ・デ・マヨというメキシコのお祭りを開催した。こういったことを飛鳥山公園でやってみたいという方から観光協会に相談をいただいた。
- ・観光協会は、北区と協議をして公園を使えるようにするなど、中間的組織として支援をした。プレイヤーの方がもっと多く集まれば、北区ももっと盛り上がると思うが、観光の産業化には課題があり、はたしてイベントを開催したことに対して収益がどのくらいあるのか、イベント疲れて終わってしまうのではなく、ここで開催すればしっかり収益もあるということが重要だと思う。補助金があるが、果たしてどのような形がよいのかと思っている。

(A 委員)

- ・確かに産業観光を持続するためには、採算がとれるかどうかということが死活問題なので重要だと思う。観光協会以外の主催が持ち込み企画をしてくれるようにどんどんなっていけば、そのときこそ確かに魅力が確立されているという状況になるのではないのか。そのためには、まず支援が必要ではないかと言われると、その可能性もあると思う。制度的に何らかの支援ができるような形にしておいた方がよいのではないのかと思う。
- ・続いて「地域プレイヤーの発掘・育成」について、ご意見があればお願いしたい。

(G 委員)

- ・私も 30 代のときに東京青年会議所 (JC) に所属していて、この中の 7 名が関係者で、北区みらい塾も JC 出身者が多くなっている。地域のプレイヤーの発掘という内容はいいが、いかんせん狭いと思う。JC に関しては月 4・5 日の活動で、北区みらい塾も 40 名ほどだが、地域で活躍しているプレイヤーの方々が中心となっている。私は 1 期生で現在 2 期目だが、そのように感じている。
- ・地域のプレイヤーを見つけるために何をしなければならぬかということだが、例えば、学生にシティプロモーションで「飛鳥山公園をこのように使いましょう」というテーマで発想を出してもらえばいいのではないのか。また、学生だけに限らず、この活動を来年度実行するので運営を手伝ってくれる人を募集するなどはどうか。学生の方が発想は自由なので面白い意見が出ると思う。学生の部、一般の部、女性の部など色々なシティプロモーションの案を出していただいた中で実際にやりたいと思うプレイヤーを募るということを自治体が支援してみることは非常に面白いと思う。

- ・学生でいえば、地域の企業も就職面でもバックアップしていただいて、新卒の方に自分の会社はこのようなことをしているということを知らせる場を作るなどはどうか。面白い発想、「それいいね」と思わせることが重要。一緒に活動する一般の方、单身の方などは「飛鳥山公園に行ったことがあるけどいい公園ですね」「もっとこういう風だといいのに」と思っていると思う。そういった感じで一回参加してもらう環境づくりができると、地域のプレイヤーはだんだんと増えてくるのではないかと。私も桜祭り、区民祭り、花火、商店街のイベントもやりつつ、子ども食堂の活動もやって、このような意見を発する場にも参加しているが、20代・30代の若手の発掘について、休みの日の充実など、日々をどうやって過ごしてもらうかに注視していけば参加してくれるのではないかなと思う。

(A 委員)

- ・毎回お祭りや企画を考えろと言われても、アイデアはネタ切れしてしまう。イベントの企画コンペのような形で学生部門、一般部門のような形で文化祭みたいにやるのもあると思うし、だからこそやってくれるような学生さんがいるような気がする。
- ・各団体が連携してできればいいのではないかと。個々の団体ではそろそろネタ切れで、それこそイベント疲れではないかと。全員で支えればできるかもしれない。
- ・そろそろ時間だが、部会長からはいかがか。

(部会長)

- ・商店街の問題については皆さんが感じているとおり。北区内の商店街はずいぶん前に全部回り、都内の商店街もいろいろと拝見したが、皆さんがおっしゃっているとおり、非常に高齢化が進んでいて、息子や娘には継がせたくないという方が多い。自分たちの代が終わったらテナントビルにして貸したいという方が多く、実際にそのように進んでいる。
- ・近隣でいうと、板橋区の大山商店街は、30年前はみんなで商店街を盛り上げようとしていたので、あのような形の再開発は受け付けなかったが、皆さん70代を超えてこのままではよくないということで、再開発を受け入れたという話を聞いた。
- ・商店街の方々は、時代に応じてある程度変化を受け入れていく必要があると思う。今後北区も含めて再開発が進むので、そのときにどのような商店街が必要なのか、どのようなまちが必要なのかは住民の方々の意見も出していく必要があると思う。
- ・20年くらい前に中心市街地活性化法によって、各地で再開発をやった。私もいくつかの市で委員をやったが、最近、国交省の方と話して「成功事例はどこですか」と聞くと「実はありません」と言われ、あまり上手くいかなかったようである。そのような悪い事例も参考にしながら、どうしていくのかということを考えなければならぬのではないかと。
- ・先ほど理事長が90代という話があったが、団塊世代の方が80歳代になり抜けてきて、若い方たちに任せるようになってきている。ここからどのような動きができるのかということにつながって、先ほど若手プレイヤーに参加してもらう話があったが、どのようにして参加してもらうかということを考えることが大事だと思う。
- ・自治会、商店街組合に入らない話もあった。大阪でもPTAや子供会が解散することがある。理由を聞くと、以前の世代と現在の世代で考え方にギャップがあるということ。色々な仕組みは、お母さんが家にいることが前提で作られているが、今は北区では共稼ぎの方がかなりの割合になってきていて以前のような仕組みでは参加できない。B委員がおっしゃっていたが、町会費を集めに一軒一軒回るのは骨が折れる。スマートフォンを利用して送れるようにしたいのではないかと、ということ聞いたことがある。そのようなことを取り入れて、変えていかないと参加しにくいのではないかと。
- ・うちの大学もそうだが、地元から言われて消防団に数人の学生が参加している。理由は高齢化で、若い学生に災害のときに助けてもらいたいということ。何か起こったときに大学と一緒に災害対策をしたいという意見が

あり、将来警察官や消防士になりたい学生もいるので、そのような学生を積極的に消防団に参加させるということ。学生なので現役の方と同じように活動できるかどうかは分からないが、セミ会員という形で参加させてもらって、いろいろな話をするのが大事ではまいいか。

- ・大きな問題としては、外国人の問題。簡単に「共生」というけれど、これは非常に大きな問題。以前シンガポールに住んでいたが、シンガポールでも非常に苦慮している問題である。個人によっても違うが、民族によって考え方が全然違う。例えば、中国が将来どうなるか分からないので、中国人の富裕層は、子供は将来日本で育てたい、大学、大学院まで行かせたいので、近隣との無用なトラブルは防ぎたいと考えている。
- ・一方で、自分たちの国でやっていたやり方を全く変えずに集団で生活するという、我の強い民族もいて、一概にすべてを強制でやっていけることではないと思う。先日、大阪市内でこのような話をしていたら、行政側で、塾ではないけれど、外国人の方々のための日本で生活していくためのセミナーのようなものを開催して、外国人の方にも理解をしていただくようなことをしているとのこと。留学生と話をしていると、来日したときは分からなかったことがあったと言っており、警察を呼ばれたこともあったそうである。暮らしていくうちにだんだん理解していくこともあると思う。
- ・1980 年代後半にベトナムとカンボジアから大量に難民が入ってきたときはほとんど問題が起ころなかった。何故かという、そのときは国が難民受入の事務局を作っていて、広尾辺りにあり、行ったことがある。難民の人達が入ってきたときに、一般の生活をする前に研修をしている。これは必要なことで、無用な対立を引き起こしてはダメだが、私は少し悲観的で、そのうち対立が起これるのではないだろうかと悲観的に見ている。どのように受け入れていくかという、産業振興の内容なのでそこまで踏み込めないが、おそらく今後大きな課題になっていくだろうと思う。
- ・外国人から言わせると日本の警察は甘いと言っている。中国人の友人がいて、騒いでいる中国人がいたときにすれ違いざまに何かを言ったので、「何を言ったのか」と聞いたら、中国語で「公安にいう」と言ったらピタッと静かになった。何故かと聞くと、中国人は中国の警察をすごく怖がっているからとのこと。だから日本の警察はゆるいと思っているという話を聞いた。
- ・商店街に関しては、グランドビジョンの中でどのような位置付けをしていくのかということをもう一度整理し直す必要があるのではまいいかと思う。

(A 委員)

- ・皆様からいただいたご意見は、同様に後日事務局でまとめさせていただく。
- ・本日の議事はこれで終了とする。

4 事務連絡・閉会

以上